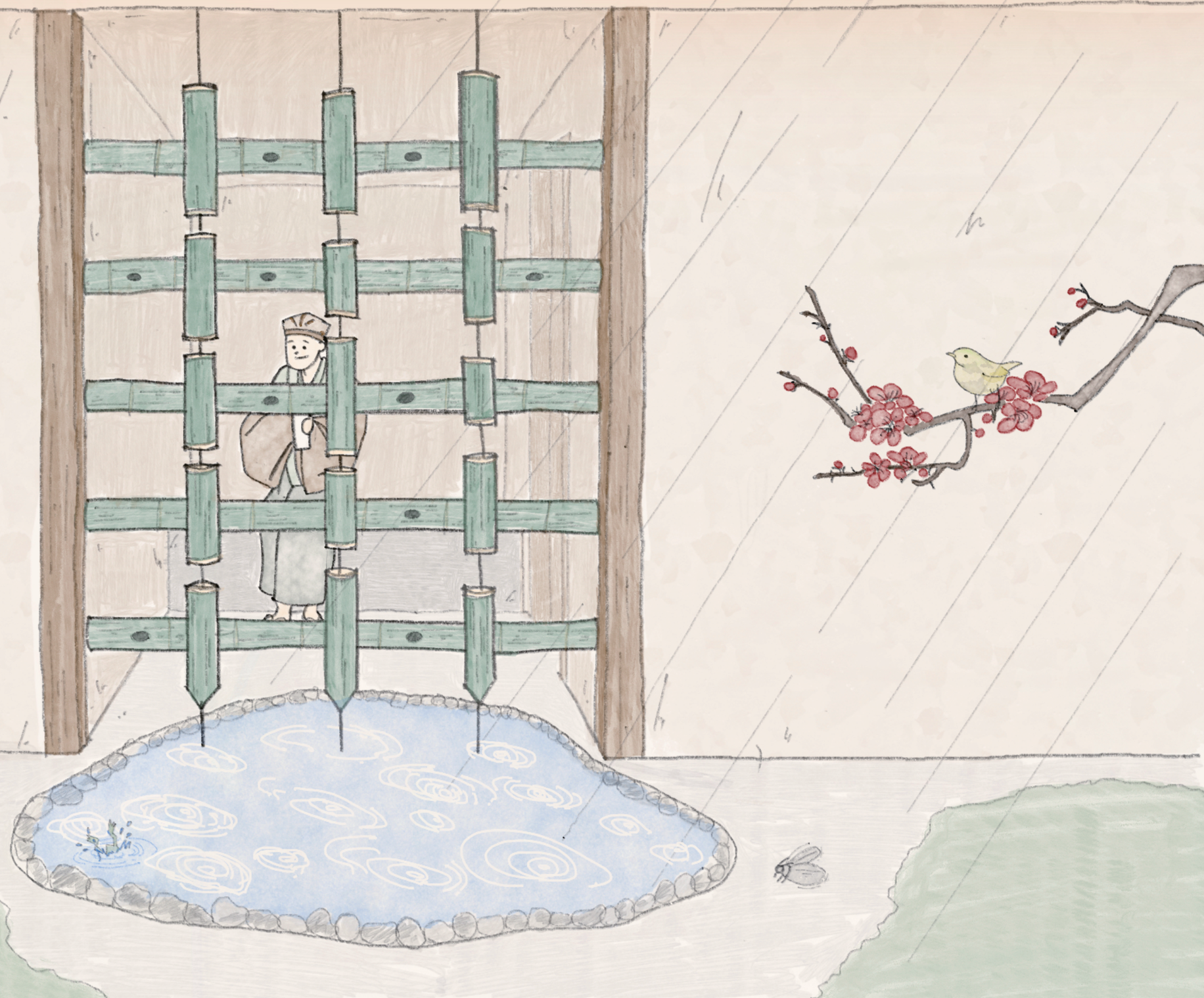
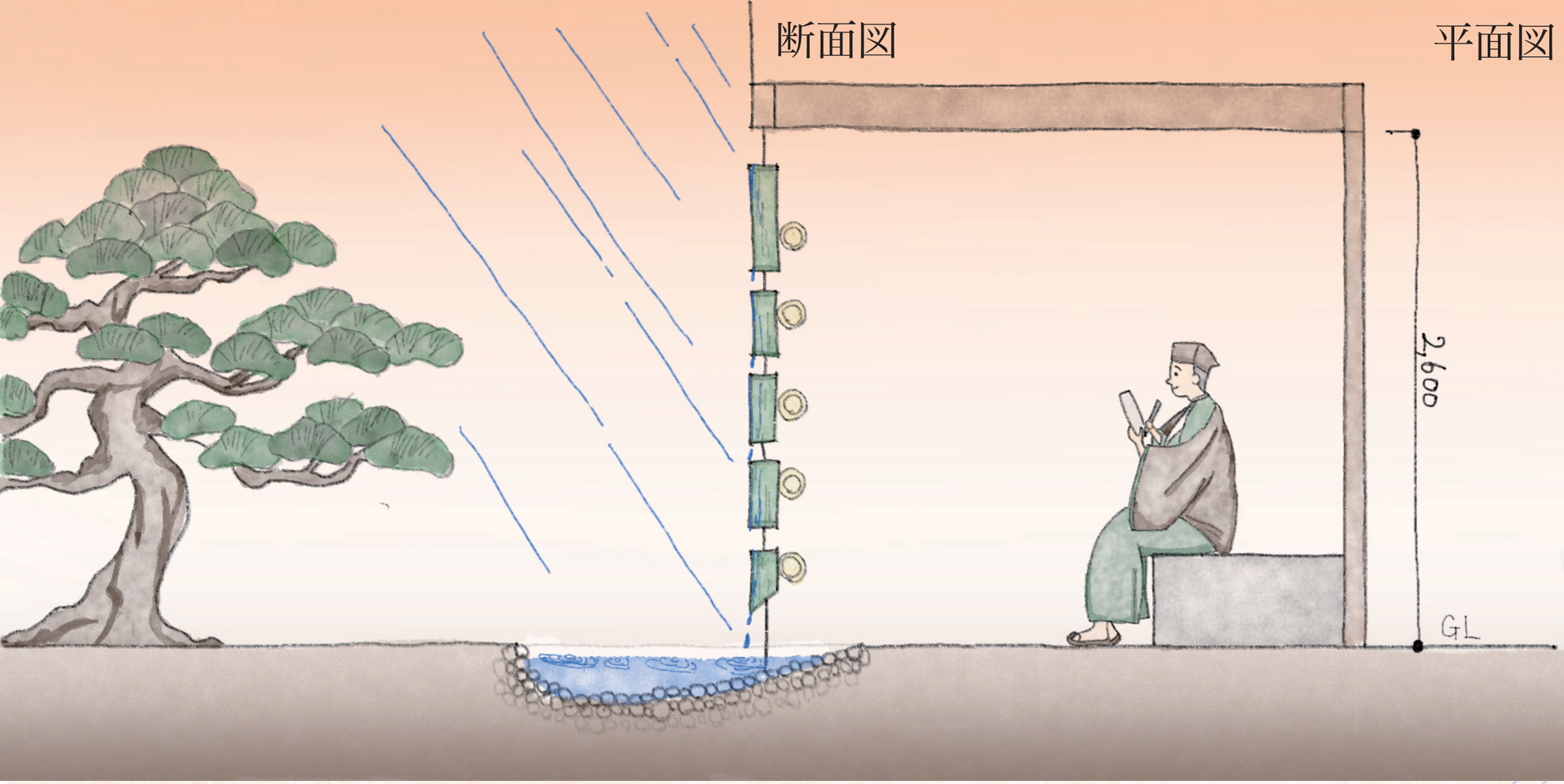
小さい 音 の 音楽室

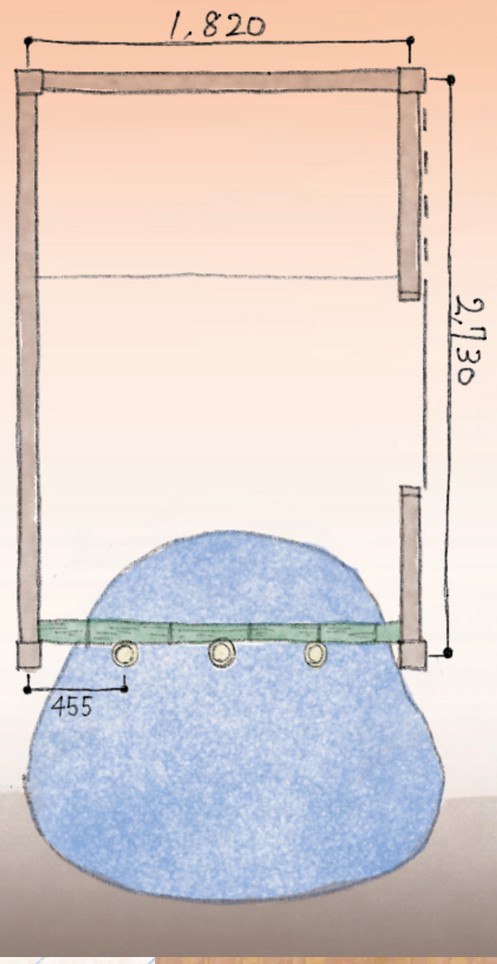
コンセプト

「古池や蛙飛び込む水の音」

これは日本人なら誰もが聞いたことのある松尾芭蕉の一句である。
私たち日本人には、小さい音に思いを馳せる感性があり、今の私たちの DNA にも受け継がれていると思う。
お寺や古民家を訪れししおどし、風鈴などに表れていると感じた。
今の私たちはテレビやスマホなどの大きい音に慣れ、遮音性を高め小さい音を聞く感性が失われつつあるのではないだろうか。
木管楽器、風鈴からヒントをもらい、竹を使い竹害と向き合い、ファサードを構成する。秋虫や木々の揺らぎ、雨音などがここに重なり、暮らしに小さい音たちを奏でる。
住宅の１部として作られ、私たちが今まで気づけなかった音に出会えるかもしれません。

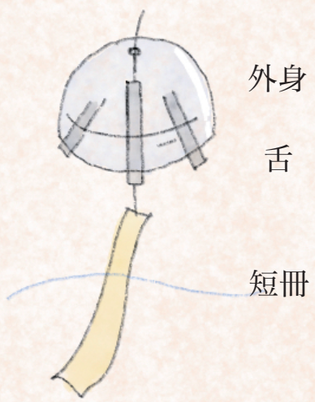






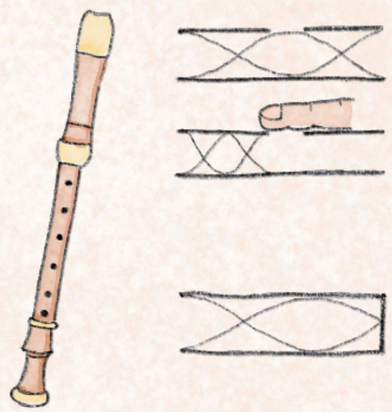
風鈴と木管楽器より

風鈴



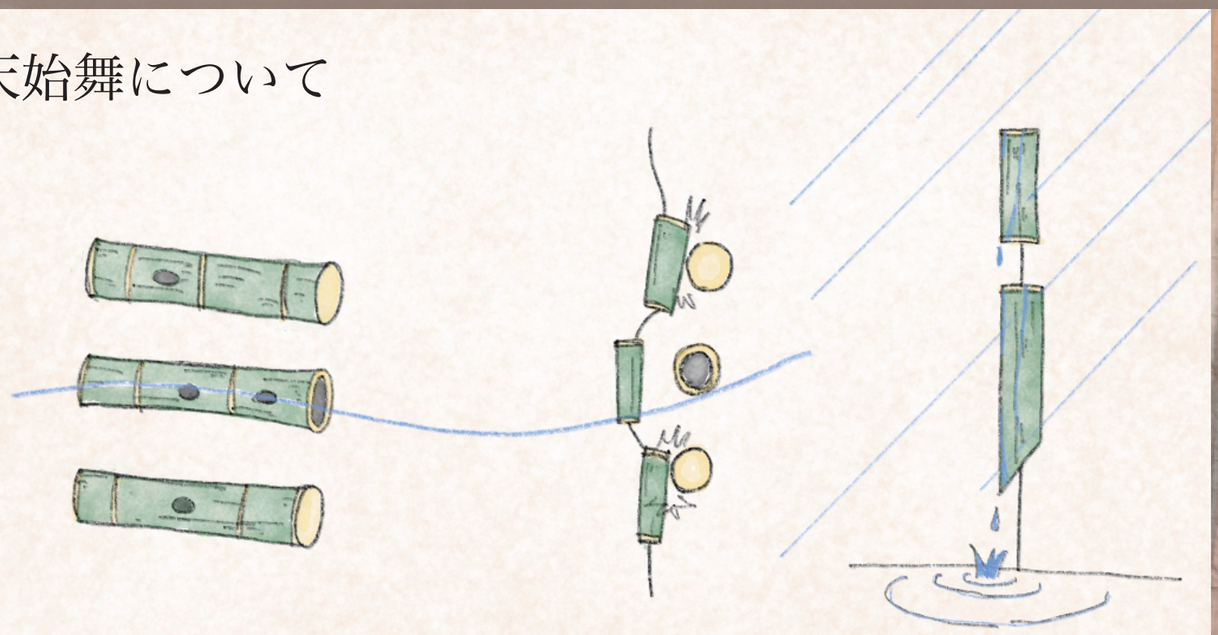
短冊が風を受けて揺れ
舌(ぜつ)と外身(そとみ)
がぶつかり、音がなる。

木管楽器



音孔と呼ばれる穴があり、塞ぐことで振動の波長が変化し音の高低差をつけている。
また、開かれた開端と閉じた閉端によって変化が出る。

天始舞について



横に並行する竹は固定されている。それぞれの端を開端や閉端など使い分け、
縦に並行する竹はロープで繋がれ、風で動き横向きの竹とぶつかることで音がなる。
１番下は角度を付け水滴が落ちる様子を眺めることができる。
こうして天候によって音が奏でられる。よって天始舞（あまじまい）とした。

竹害

かつて道具や建材として人気のあった竹は繁殖力ゆえ手入れされなければ植生環境を変える。再び竹を住宅に取り入れることを目指す。